

第3回寄居町議会議員報酬検討委員会の内容

開催日：令和7年4月28日

研修会：演題 町村議会議員のなり手不足と報酬

講師 拓殖大学 政経学部 河村和徳 教授

議題：議員報酬の改定について

内容 意見交換会

テーマ「議員・議会に求めるものは？」

「議員になるための課題」

開催場所：寄居町役場6階会議室

出席者：議員報酬検討委員会委員 11名

拓殖大学政経学部 河村和徳教授をお招きして、「町村議会議員のなり手不足と報酬委員」について講演を聞きました。研修会終了後、4人のグループに分け、「議員・議会に求めるものは？」と「議員になるための課題」について意見交換を行いました。

各グループの意見は下記のとおりです。

意見交換

テーマ 議員、議会に求めるもの

1班

近隣の市町村の良いところを勉強してもらい、執行部、町長に提言してもらえらるともつとよい。広聴も含め広報活動を可視化して、町民との結びつきをしっかりと築くことを求めている。広報は、紙や対面で行うことも大事なことであるが、SNS、も積極的に取り入れれば、若い人にスムーズに入りやすくなると思うので、この辺のことも大事なことだ。そうすることで議会は頑張ってるということを知らしめることになる。

2班

議員には日頃から、様々な人が身近に話ができて、今、「何が課題なのか」、「何が問題なのか」、「何に困っているのか」、特に若い人の意見も特に含めて聞いてほしい。議会だよりの工夫をしているが、皆さんが関心があるかというと、なかなかそこまでいっていない。投票率もそうだと思う。もっと努力を。可視化の話も出た。

3班

議会報告会を年に2回必ず開催しているが、報告会の中で議員の活動の報告と、また議員に要望を非常に出しやすいということで、報告会は非常に良いという話があった。また、わ

れわれこの会議の中で出た意見として、「議員報告会・議会報告会」や「議会だより」など、選挙区の皆さんに何か形で出してもらえばよいという話があった。

あとは例えば「町長の手紙」みたいなものや、町長は直接会って懇談をするが、議員にもそういうものを、機会があれば実施してもらいたいという話も出た。

良いことを可視化するということ。議会だよりの素晴らしさも、皆さんに知っていただきたいというのが実情で、ぜひ垂れ幕を庁舎の外に大きく出すのも、理解をしていただくという意味ではよいという話が出た。

テーマ 議員になるための課題

1 班

やはり報酬というのは大きな課題だと思う。報酬を上げられることに越したことはないが、頑張っているという姿を見せることが、町民の理解を得られることと思うので、広報活動で一つきっかけを作ってもらえればと思う。

それから議員報酬の状況を見させてもらったが、一般会計全体と議会費を比較したら、寄居町の構成比は1%で、他の市町村とあまり変わらない状況である。つまり、決して議会費は少なくない。だけれども、低いという状況になっている。これどうしてなのかなと。議会費の中では議員報酬は率的に低いと。どういうことなのかを考えてもらおうと、報酬を上げる一つのきっかけなのかなと思った。

それから、課題として非常に大きいのは4年ごとの選挙。立候補するための一つの障害になると思う。一生懸命やってる姿を見せることで、また次に繋がっていくと思う。

あと、議員同士の中でも、若い人の意見が通りやすい、理解していただくともっと若い人が立候補しやすくなる。風通しがよいということが一つの大きなきっかけになる。

2 班

条件もあるが、「議員になりたい」、「議員として活動したい」、そういうことを思える議会、「寄居町議会で自分も活躍したい」と思える魅力ある議会にするため、さらなる努力をどうしたらよいか、そんなことも思いながら進めてもらえるとよい。

若い人が議員になっても、生活が成り立ってほしいが、最長で4年間しか保障がない。あと子育て中でも議員活動ができるような、そんな街づくりがあると女性を含めて、子育て世代の方も挑戦できるという話が出た。

3 班

給料面、生活面で、非常に今のままでは、若い人たちが手を挙げるのは難しいという現状は誰でも思うことで、そういう皆さんから注目されて、またそのことによって議員の方も身を引き締めて、町政に頑張っていくということをお互いの相乗効果を狙うような形で、数字を出せばよいという話も出た。

議員がどういうものか、自分の生活がどう変わるかと、不安を持っている方も多いと思

う。議員になりたい、やってみたいと思う人の勉強会を開催する。まず、議員になりたい人、自分の中で少しでも議員に興味ある人は、勉強会に来ていただき、議員はこういうものである、また生活の安定や、議員のできることを説明することによって、「だったらやってみよう」と判断する材料に、勉強会を今後開いたら、議員になろうと思っている人にとっては大変助かると思った。